

あらためて、地域医療の充実に貢献していきます

理事長 貞方 洋子

例年通り、平成28年度（2016年）の病院概要と一年間の患者統計など、病院業績及び職員の研究業績がまとまりましたので、「南風病院 平成28年度年報」として皆さまにお届け致します。ことしも多くの医療機関から沢山の患者さんをご紹介していただきました。本当にありがとうございました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、平成28年度は、熊本県と大分県の広い範囲に甚大な被害をもたらした熊本地震の発生と共に幕を開けました。東北大震災に引き続き大自然の圧倒的な脅威にさらされましたが、DMATを始めとする災害救援活動や救援物資の搬送等、それに怯むことなく立ち向かう人間の力強さに今回も頭の下がる思いでした。未だ復興の途上ようですが被害に遭われた方には一日も早く普通の生活が戻ることを願うばかりです。

また、診療報酬改定も行われました。こちらは、入院基本料7対1の要件である「重症度、医療・看護必要度」が20%から25%に引き上げられ、地域包括ケアシステムに向けた急性期医療の絞り込みがさらに厳しいものとなってきました。南風病院でも将来を見越し、病床区分の見直しを始め最終的な病院の「カタチ」について議論を重ねて参りました。その他、人事制度の見直しや脊椎・関節センターの開設などの診療体制の見直しなど、内部体制の強化に努めて参りました。

平成29年度が始まってすでに上半期が過ぎようとしています。年々、厳しさを増す急性期医療ですが、これからは国と同様、病院としても「治す医療」から「治し・支える医療」を、どのように展開したら更なる地域貢献ができるかを模索しています。

これからも職員一同、いま以上に研鑽を積み、病々・病診連携を図りながら、地域医療支援病院として、地域医療の充実に貢献していきたいと考えています。引き続きのご支援とご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

Nanpuh Hospital